SONY®

3-265-086-**03**(1)

ICレコーダー

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ**、製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

IC RECORDER

ICD-ST45/ST25

⚠警告 安全のために

事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

- **安全のための注意事項を守る**
- **故障したら使わない**
- **万一異常が起きたら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する**

警告表示の意味

この取扱説明書では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなど人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

火災

感電

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

ぬれ手禁止

接触禁止

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

目次

（次ページへ続く）

目次（つづき）

- 本製品の不具合により、録音ができなかった場合、および録音内容が破損または消去された場合、録音内容の補償についてはご容赦ください。
- 本製品を使用したことによって生じた金銭上の損害、逸失利益および第三者からのいかなる請求につきましても、当社は一切その責任を負いかねます。
- 録り直しの聞かない録音の場合は、必ず事前にためし録りをしてください。
- あなたが録音したものは個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

⚠警告

下記の注意事項を守らないと火災・感電により死亡や大けがの原因となります。

運転中は使用しない

- 自動車、オートバイなどの運転をしながらイヤーレシーバーなどを使用したり、細かい操作をしたり、表示画面を見ることは絶対におやめください。交通事故の原因となります。
- また、歩きながら使用するときも、事故を防ぐため、周囲の交通や路面状況に充分ご注意ください。

内部に水や異物を落とさない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電池を抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない

火災や感電の原因となることがあります。
とくに風呂場では絶対に使用しないでください。

国内専用機は海外で使用しない

ACパワーアダプターは、日本国内専用です。交流100Vの電源でお使いください。海外などで、異なる電源電圧で使用すると、火災・感電の原因となります。

指定以外のACパワーアダプター、コードなどを使わない

破裂・液漏れや、過熱などにより、火災、けがや周囲の汚損の原因となります。

雷が鳴りだしたら、電源プラグに触れない

接触禁止

感電の原因となります。

⚠注意　下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

内部を開けない

感電の原因となることがあります。内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

大音量で長時間つづけて聞きすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。とくにイヤーレシーバーで聞くときにご注意ください。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。

はじめからボリュームを上げすぎない

突然大きな音がでて耳を痛めることがあります。

ぬれた手でACパワーアダプターをさわらない

感電の原因となることがあります。

通電中のACパワーアダプターに長時間ふれない

長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

本体やACパワーアダプターを布団などでおおった状態で使わない

熱がこもってケースが変形したり、火災の原因となることがあります。

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱・発火・誤飲による大けがや失明を避けるため、下記のことを必ずお守りください。

⚠危険 乾電池が液漏れしたときは

乾電池の液が漏れたときは素手で液をさわらない

液が本体内部に残ることがあるため、お客様ご相談センターまたはソニーサービス窓口にご相談ください。

液が目に入ったときは、失明の原因になることがあるので目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。

液が身体や衣服についたときも、やけどやけがの原因になるので、すぐにきれいな水で洗い流し、皮膚に炎症やけがの症状があるときには医師に相談してください。

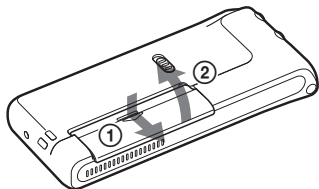
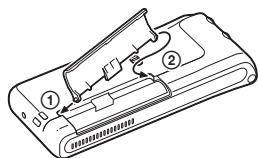
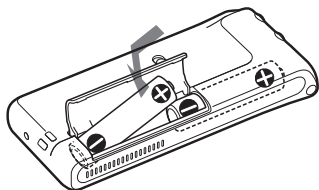
⚠警告

- 小さい電池は飲み込む恐れがあるので、乳幼児の手の届くところに置かない。万が一飲み込んだ場合は、窒息や胃などへの障害の原因になるので、直ちに医師に相談する。
- 機器の表示に合わせて＋と－を正しく入れる。
- 充電しない。
- 火の中に入れない。分解、加熱しない。
- コイン、キー、ネックレスなどの金属類と一緒に携帯・保管しない。ショートさせない。
- 液漏れした電池は使わない。
- 使い切った電池は取りはずす。長時間使用しないときも取りはずす。
- 新しい電池と使用した電池、種類の違う電池を混ぜて使わない。

⚠注意

- 火のそばや直射日光のあたるところ・炎天下の車中など、高温の場所で使用・保管・放置しない。
- 外装のビニールチューブをはがしたり傷つけたりしない。
- 指定された種類以外の電池は使用しない。

準備1: 乾電池を入れる

1 電池ぶたを矢印の方向へずらして開ける。

2 単4形アルカリ乾電池（付属）を2本入れ、ふたを閉める。

電池ぶたは落としたり、無理な力を加えたりするとはずれることがあります。そのときは右図のようにはめ直してください。

お買い上げのあと、初めて電池を入れたときや、電池を抜いたまま長時間お使いにならなかった後に電池を入れたときには、日付表示が点滅します。「準備2: 時計を合わせる」（12ページ）の手順4〜6をご覧になり、時計を合わせてください。

乾電池を交換する時期

電池の残量がなくなってくると、表示窓の表示でお知らせします。

ご注意

- 電池を交換する際、消耗した電池を抜いてから3分以内に新しい電池を入れないと、時計設定画面（日付表示が点滅）に戻ってしまったり、日付・時刻が正しく表示されないことがあります。この場合は時計を合わせ直してください。録音した内容やアラーム設定は消えません。
- 本機にはマンガン電池はお使いになれません。
- 本機では充電式の電池も利用できます（10ページ）。
- 別売りのACパワーアダプターAC-E30L使用時は、電池残量表示は表示されません。
- 付属のACパワーアダプター（ICD-ST45のみ）AC-ES3010K使用時は、電池残量表示は表示されません。

電池の残量表示

: 2本とも新しい電池に交換してください。

↓

:操作ができなくなります。

乾電池の持続時間（ソニーアルカリ乾電池LR03（SG）使用時）

	録音モード：	STモード	SPモード	LPモード
連続使用の場合	録音時：	約13時間	約15時間	約18時間
	再生時：	約6.5時間	約7.5時間	約8.5時間

* 音量レベルが中間付近で内蔵スピーカーで再生した場合。
* 電池持続時間は使用条件によって短くなる場合があります。

（次ページへ続く）

準備1: 乾電池を入れる（つづき）

アクセス中のご注意

画面上に「ACCESS」表示が出ている間や、本体上部の録／再ランプがオレンジに点滅している間は、メモリーへアクセス中です。

アクセス中は、乾電池をはずしたり、ACパワーアダプターを抜いたりしないでください。データが破損するおそれがあります。

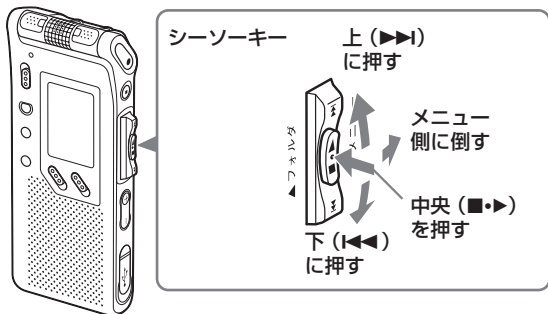
ご注意

用件数が多いと、「ACCESS」表示が長時間表示されることがありますが、故障ではありません。表示が消えるまでお待ちください。

充電式の電池を使用する場合のご注意

- 本機では、充電式の電池も使用できます。
- 充電池で満充電状態でも、本機に入れたときにバッテリー残量表示がフル状態を示さない場合があります。
- 電池の持続時間は、アルカリ乾電池よりも短くなります。
- 充電池を充電する際に本機から電池を抜く必要があるため、その間に別の充電池または乾電池を入れておかないと、充電のたびに時計設定が初期状態に戻ってしまいます。
- 充電器は常温で使用してください。
- 充電池および充電器は、以下の製品をご利用ください。
  充電式ニッケル水素電池：NH-AAA-4BC
  充電式ニッケル水素電池専用急速充電器：BCG-34HRD

準備2: 時計を合わせる

アラーム機能を使用したり、録音した日時を記録するためには、本機の時計合わせをしておく必要があります。
お買い上げのあと、初めて電池を入れたときや、電池を抜いたまま長時間お使いにならなかったあとに電池を入れたときは、日時表示が点滅します。手順4から始めてください。

1 シーソーキーをメニュー側に倒す。

メニュー画面が表示されます。

2 シーソーキーを上下（▶▶I/I◀◀）に押して「SET DATE」を選ぶ。

3 シーソーキー（■•▶）を押す。

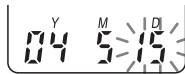
時計設定画面が表示されます。
「年」の数字が点滅します。

準備2: 時計を合わせる（つづき）

4 年月日を合わせる。

①シーソーキーを上下（▶▶I/I◀◀）に押して「年」の数字を選ぶ。

②シーソーキー（■•▶）を押す。
「月」の数字が点滅します。

③同様にして、「月」「日」を合わせる。

④シーソーキー（■•▶）を押す。
「時」の数字が点滅します。

5 時分を合わせる。

①シーソーキーを上下（▶▶I/I◀◀）に押して「時」の数字を選ぶ。

②シーソーキー（■•▶）を押す。
「分」の数字が点滅します。

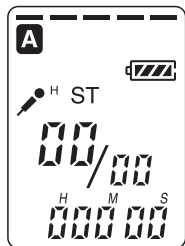
③同様にして、「分」を合わせる。

④シーソーキー（■•▶）を押す。
メニュー画面に戻ります。

ご注意
シーソーキー（■•▶）を押さずに1分以上たつと、時計合わせがキャンセルされ、通常の表示に戻ります。

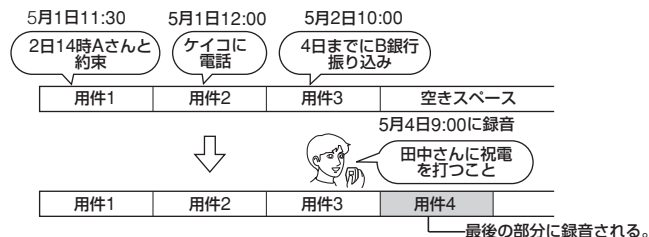
6 シーソーキーをメニュー側に倒す。

メニュー設定が終了し、通常の表示に戻ります。

☞ 時計設定後、3秒以上何も操作をしないと、現在時刻表示（29ページ）となります。

用件を録音する

5つのフォルダ（A、B、C、D、E）にそれぞれ99件まで用件を録音できます。録音には、次の3通りの方法があります。

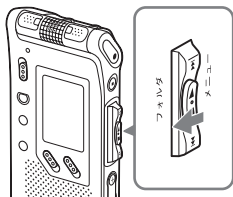
- 一番最後の部分に録音する
- 録音済みの用件に追加録音する（37ページ）
- 上書き録音する（38ページ）

ここでは、一番最後の部分に自動的に録音する方法を説明します。

最大録音可能時間

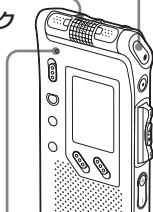
最大録音時間は、全フォルダ合わせて下記のようになります。ひとつのフォルダに最大録音時間まで録音することもできます。

録音モード	STモード（ステレオ）	SPモード（モノラル標準）	LPモード（モノラル長時間）
ICD-ST45	5時間50分	17時間50分	47時間35分
ICD-ST25	1時間25分	4時間20分	11時間35分

ご注意

- より良い音質で録音したいときは、STモードをお使いください。録音モードの切り換えかたは、55ページをご覧ください。
- 録音を始める前に必ず電池残量表示（9ページ）を確認してください。
- 長時間録音途中の電池交換を避けたいときは、付属のACパワーアダプターAC-ES3010K（ICD-ST45のみ）または別売りのACパワーアダプターAC-E30Lをお使いください（59ページ）。
- 録音モードを混在して録音した場合、最大録音時間は任意に変化します。

1 録音したいフォルダを選ぶ

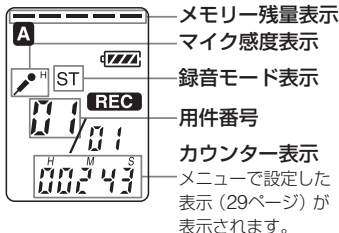
シーソーキーをフォルダ側に何度か倒して、録音したいフォルダ（A、B、C、D、E）を表示させる。

2 録音を始める

録／再ランプ（録音中は赤く点灯）
メニューの「LED」を「OFF」に設定しているときは消灯します（52ページ）。

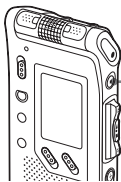
① 停止中に●録音／録音一時停止ボタンを押す。

●録音／録音一時停止ボタンは、録音中ずっと押し続ける必要はありません。

② 内蔵マイクに向かって話す。

メニューで設定した表示（29ページ）が表示されます。

ご注意

- 録／再ランプが赤またはオレンジに点灯・点滅中は電池をはずしたり、ACパワーアダプターを抜いたりしないでください。データが破損するおそれがあります。
- 録音中、本機に手などがあたったり、こすったりすると雑音が録音されてしまうことがあります。ご注意ください。

3 録音を止める

■停止ボタンを押す。
今録音した用件のはじめで停止します。
次に録音するとき、フォルダが同じ場合は、手順1は省略できます。

その他の操作

録音を一時停止する*	●録音／録音一時停止ボタンを押す。 録音一時停止中は録／再ランプが赤く点滅し、「PAUSE」（録音一時停止）表示が点滅します。
録音一時停止を解除する	もう一度●録音／録音一時停止ボタンを押す。 先ほど録音していた用件に続けて録音することができます。（録音一時停止後、録音を続けず、停止するときは、■停止ボタンを押します。）
今録音したばかりの用件を聞く	シーソーキー（■•▶）を押す。 録音が解除され今録音した用件のはじめから聞くことができます。
早戻し（レビュー）する	録音中または録音一時停止中にシーソーキーを再生（I◀◀）に押す。 録音が解除され今録音したところが早戻し（レビュー）再生されます。シーソーキーを元に戻すと、戻したところから再生が始まります。続けて上書き録音（38ページ）をしたいときなどに便利です。

* 録音を一時停止して約1時間たつと、録音一時停止は解除され、録音停止になります。

マイクの設定をする

特定の方向の音を中心に録音する

- 内蔵マイクを回転させ、最適なポジションに向けます。
- 指向性スイッチを「入」にすると、マイクを向けた方向の音を中心に録音できます。講演や会議での発表者など、特定の方向の音を録音する場合に便利です。

ご注意

指向性スイッチは、本機の録音モードがSP（標準）またはLP（長時間）モードの場合のみ働きます。音声の音場感を重視するST（ステレオ）モードの場合は、指向性スイッチを「入」にしても働きません。
録音モードについては、55ページをご覧ください。

全方向の音を録音する

指向性スイッチを「切」にします。内蔵マイクの回転方向による違いはありません。

内蔵マイクの感度を切り換えるには

メニューの「SENS（マイク感度）」で設定します（55ページ）。それぞれに特徴を持った2つのマイク感度から、お使いの場面に合わせた感度を選んでください。

H：　小さな音を大きくするとともに、全体の録音レベルを最適化することでバランスのとれた録音を実現します。広い会議室での録音など、遠くの音や小さい音を録音するときに使用します。

L：　口述録音など、マイクを口元に近づけて録音したり、近くの音や大きい音を録音するときに使用します。

録音中の便利な機能を使う（録音モニター／デジタルVOR）

録音中の音を聞くには―録音モニター

内蔵マイクで録音中は、付属または別売りのイヤーレシーバーをヘッドホンジャックに差し込むと、録音中の音をつないだイヤーレシーバーからモニターできます。モニター音は音量+/−ボタンで調節できます。（録音レベルは一定です。）

ご注意

録音モニター中に音量を上げすぎたり、イヤーレシーバーを本体に近づけすぎたりすると、イヤーレシーバーの音を内蔵マイクが拾い、ピーッという音（ハウリング）が生じることがあります。

音がしたとき自動的に録音を始めるには―デジタルVOR機能

メニューの中で、VOR（自動音声録音スタート）機能を設定できます（56ページ）。なお、録音中にVOR録音の設定を変更することもできます。

- メニューでVORを「ON」に設定してから●録音／録音一時停止ボタンを押すと、「VOR」が表示されてVOR録音が始まります。
- マイクで拾う音が一定レベル以下まで小さくなると、「VOR」と「PAUSE」が点滅して、VOR録音一時停止状態になります。
- VOR録音一時停止状態のときにマイクが一定レベル以上の大きさの音を拾うと、VOR録音が再開されます。VOR録音を完全に停止するには、メニューでVORを「OFF」に設定してください。

ご注意

- VOR機能は周囲の環境に左右されます。状況に合わせてマイク感度を切り換えてください。マイク感度を切り換えても思いどおりに録音できないときや、大切な録音をするときは、VORを「OFF」に設定してください。
- 重要な会議などを録音するときは、VORを「OFF」に設定してご使用ください。

メモリー残量表示について

残量が減ると、ひとつずつ消えていきます。残り時間が5分を切ると、メモリー残量表示が点滅します。

さらに残り時間が1分を切ると、残り時間表示も点滅します（29ページの表示モードの設定には関係なく残り時間表示となります）。

メモリーがいっぱいになると、自動的に録音が止まり、「ピピピピ」という警告音が鳴り、「FULL」が表示されます。録音を続けるには、不要な用件をいくつか消去してください（39ページ）。

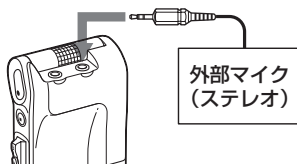
ご注意

メニューで「BEEP」（56ページ）を「OFF」に設定しているときは、ビープ音は鳴りません。

外部マイクや他の機器を使って録音する

外部マイクや他の機器（テープレコーダーやMDなど）の音声を本機で録音できます。お使いになる機器により、次のように接続します。

外部マイクで録音する

本機のマイクジャックにマイクロホンをつなぎます。
外部マイクをつなぐと、内蔵マイクは自動的に切れ、外部マイクの音を録音します。プラグインパワー対応のマイクを使うと、マイクの電源は本機から供給されます。

☞ **お使いになれるマイク**
ソニー製エレクトレットコンデンサーマイクロホン（ステレオマイク）ECM-CS10、ECM-DS70P（別売り）をお使いいただけます。

他の機器の音声を録音する

他の機器の音声を録音するには、本機のマイクジャックと他の機器（テープレコーダーなど）の音声出力端子（ステレオミニプラグ）を、別売りのソニー製オーディオコードを使ってつなぎます。オーディオコードの型番については、別紙の「ICD知っ得Q&A」をご覧ください。

ご注意

- ICレコーダーへの入力に抵抗なしオーディオコードを使用すると音声がゆがんで録音されることがあります。抵抗入りオーディオコードをお使いください。
- 他の機器の音声を録音する場合は、「SENS」を「H」に設定してから録音してください（55ページ）。

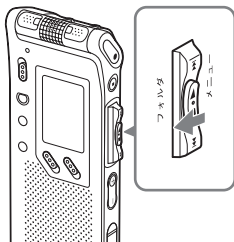
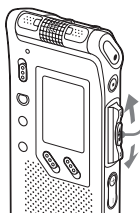
本機の音声を他の機器で録音する

他の機器で本機の音声を録音する場合は、本機のヘッドホンジャックと他の機器の音声入力端子（ステレオミニプラグ）につなぎます。

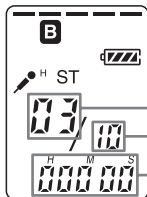
その他の接続方法については、別紙の「ICD知っ得Q&A」をご覧ください。

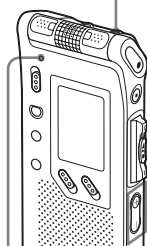
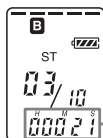
録音した用件を聞く

あらかじめ録音してある用件を選んで聞くときは、手順1から操作してください。今録音したばかりの用件を聞くには、手順3から行ってください。

1 フォルダを選ぶ

シーソーキーをフォルダ側に何度か倒して再生したい用件の入ったフォルダを表示させる。

2 用件番号を選ぶ

シーソーキーを上下（▶▶I/I◀◀）に押して、聞きたい用件の番号を表示させる。

- 上（▶▶I）に押す：　次の用件へ
- 下（I◀◀）に押す：　前の用件へ

メニューで設定した表示（29ページ）が表示されます。

（次ページへ続く）

3 再生を始める

* メニューの「LED」を「OFF」に設定しているときは消灯します（52ページ）。

1つの用件の再生が終わると、次の用件のはじめで停止します。
フォルダ内の最後の用件の再生が終わると、その用件のはじめに戻って停止します。

イヤーレシーバーで聞くには
付属または別売りのイヤーレシーバーをヘッドホンジャックにつないでください。スピーカーからは音が出なくなります。

外部スピーカーで聞くには
別売りのアクティブスピーカーをヘッドホンジャックにつないでください。

その他の操作

再生の途中、その位置で停止する	■停止ボタンまたはシーソーキー（■•▶）を押す。もう一度シーソーキー（■•▶）を押すと、止めたところから再生が始まります。
今聞いている用件の頭に戻る*	シーソーキーを下（I◀◀）に短く1回押す。**
前の用件、さらに前の用件に戻る	シーソーキーを下（I◀◀）に短く何回か押す。（停止中は押したままにすると、連続して戻ります。）
次の用件に進む*	シーソーキーを上（▶▶I）に短く1回押す。**
さらに次の用件に進む	シーソーキーを上（▶▶I）に短く何回か押す。（停止中は押したままにすると、連続して進みます。）

* ブックマーク（35ページ）を設定してある場合は、用件の頭ではなく、ブックマークの位置まで進み/戻ります。

**イージーサーチ（EASY-S）が「OFF」に設定されている場合の操作です。「ON」に設定されている場合の操作は下記の「聞きたいところをすばやく探すには —イージーサーチ機能」をご覧ください。

用件の再生スピードを調節するには — DPC（デジタル・ピッチ・コントロール）

メニューの中で、DPCの再生スピードを設定しておくと、再生中でもDPC切り換えスイッチを「入」にして、速聞き（「FAST」と表示）、または遅聞き（「SLOW」と表示）ができます（33ページ）。再生中でもDPCの再生スピードの設定はできます。

小さな音を聞きやすい大きさに調節するには— デジタルボイスアップ機能

ボイスアップスイッチを「入」にすると、聞き取りにくい小さな音も大きな音で再生することができます（32ページ）。全体の録音レベルを最適化することで、バランスの良い、聞き取りやすい再生音になります。

聞きたいところをすばやく探すには — イージーサーチ機能

メニューの中で、イージーサーチ（EASY-S）を「ON」に設定しておくと、再生中にシーソーキーを上下（▶▶I/I◀◀）に何度か押して聞きたいところまで早送り、早戻しをして聞くことができます（56ページ）。シーソーキーを下（I◀◀）に1回押すごとに約3秒前、上（▶▶I）に1回押すごとに約10秒先を再生します。会議録音などで、聞きたいところをすばやく探すのに便利です。

（次ページへ続く）

フォルダ内の用件を続けて聞くには — 連続再生

メニューの中で、連続再生（CONT）を「ON」に設定すると、フォルダ内の用件を連続して再生できます（56ページ）。再生中でも連続再生の設定はできます。

再生中に早送り／早戻しするには（キュー／レビュー）

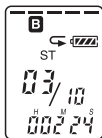
- **早送り（キュー）：**再生中にシーソーキーを上（▶▶I）に押したままにして、聞きたいところで離します。
- **早戻し（レビュー）：**再生中にシーソーキーを下（I◀◀）に押したままにして、聞きたいところで離します。

最初は少しずつ早送り／早戻しされるので、1語分だけ戻したり、送ったりして聞きたいときに便利です。しばらくそのままにすると、高速での早送り／早戻しになります。早送り／早戻し中は、表示モード（29ページ）の設定に関係なく、カウンター表示になります

☞ **最後の用件の終わりまで再生または早送り（キュー）すると**

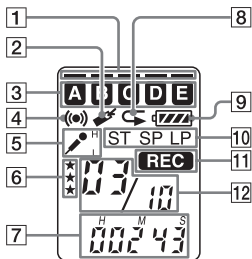
- 最後の用件の終わりまで来ると、「END」表示が5秒点滅します。
  点滅中は録／再ランプは緑に点灯しています（再生音は聞こえません）。
- 「END」の点滅と録／再ランプが消えると、最後の用件の頭に戻って止まります。
- 「END」の点滅中にシーソーキーを下（I◀◀）に押したままにすると、早戻しされ、離したところから再生が始まります。
- 最後の用件が長時間の用件の場合で、用件中の後ろの方を探して再生したい場合は、シーソーキーを上（▶▶I）に押し続けていったん用件の最後まで早送りして、「END」表示の点滅中にシーソーキーを下（I◀◀）に押して聞きたいところまで早戻しして探すと便利です。
- 最後の用件以外の場合は、次の用件の頭に送ってから再生中に早戻しすると素早く探せます。

同じ用件を繰り返し聞くには — 1件リピート再生

再生中にシーソーキー（■•▶）を1秒以上押します。
「⟲」が表示され、その用件が繰り返し再生されます。
普通の再生に戻るには、シーソーキー（■•▶）を押します。再生を止めるには、■停止ボタンを押します。

☞ **指定した区間を繰り返し聞くには（A-Bリピート）**
指定したA点とB点間を繰り返し再生できます。36ページをご覧ください。

基本的な使いかた

表示窓の見かた

表示窓の各部の名称

1 メモリー残量表示（18ページ）

2 ブックマーク表示（35ページ）
用件にブックマークが設定されていると表示されます。

3 フォルダ表示
現在選択しているフォルダが表示されます。

4 アラーム表示（48ページ）
用件にアラームが設定されているとき表示されます。

5 マイク感度表示（16、55ページ）
選択している録音時のマイク感度が表示されます。
H：会議（H）録音モード
L：口述録音モード

6 重要マーク（46ページ）
用件に設定してある重要マークが表示されます。

7 カウンター、残り時間、録音日時、現在時刻表示（29ページ）
メニューで設定した表示が表示されます。

8 リピート表示（25、36ページ）
1件リピート、A-Bリピート再生中に表示されます。

9 電池残量表示（9ページ）
電池残量を表示します。ACパワーアダプター使用時は表示されません。

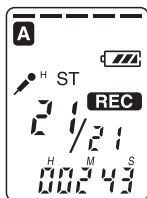
10 録音モード表示（14、55ページ）
現在選択している録音モードが表示されます。
ST：ステレオモード
SP：標準モノラルモード
LP：長時間録音モノラルモード

11 REC（録音）表示
録音中に表示されます。

12 選んだ用件番号/フォルダ内の総用件数

■ 録音・再生時の表示

通常の録音、再生時には、現在録音または再生している用件の番号、録音モード、マイク感度、カウンターなどが表示されます。

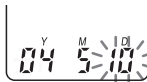
表示例

フォルダAの21件中21番目の用件を、録音モード「ST」、マイク感度「H」で録音中の場合

録音モード(OVER(上書き録音)/ADD(追加録音)など)や再生モード(FAST(速聞き)/A-B(A-Bリピート再生)など)は下側に点滅表示されます。

DPCスイッチを「入」にして速聞きを始めた場合

■ メニュー設定時の表示

メニュー項目と設定を表示します。点滅している部分が設定可能な項目です。

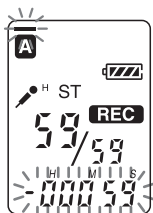
アラーム設定や時計合わせ時は、右のように時計表示になります。

年月日(2004年5月10日)設定中

(次ページへ続く)

表示窓の見かた（つづき）

■ 残量の表示

- 電池残量は右上に表示されます
- メモリー残量は上部に表示されます。
- フォルダ最後部分などは下側に点滅表示されます（FULL（メモリー残量なし）/END（フォルダの最後部分）など）。

表示例

メモリー残量表示
（残り時間が1分を切った場合）

■ エラーメッセージの表示

エラーメッセージやエラー番号（ERR　01など）を表示します（64ページ）。

アクセスエラーメッセージ表示時

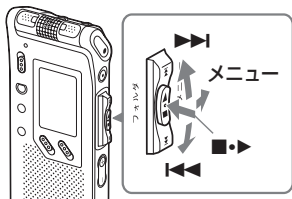
エラー番号表示時

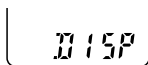
表示を切り換える

表示を切り換えることができます。停止時、録音時、再生時とも、設定しておいた表示モードになります。

1 シーソーキーをメニュー側に倒す。

メニュー画面が表示されます。

ST
MODE

2 シーソーキーを上下（▶▶I/I◀◀）に押して、「DISP」を選ぶ。

DISP

3 シーソーキー（■•▶）を押す。

表示設定画面が点滅表示します。

4 シーソーキーを上下（▶▶I/I◀◀）に押して、表示モード（次ページ）を選ぶ。

表示モードは右の順に切り換わります。

COUNT ⟷ REM
↕ ↕
REC TIME ⟷ REC DATE

5 シーソーキー（■•▶）を押す。

6 シーソーキーをメニュー側に倒す。

通常の表示に戻ります。

03/10
H M S
000 00
通常表示

03/10
8:45
現在時刻表示

☞ **現在時刻表示について**

停止中に3秒以上何も操作をしないと、表示モードに関係なく、時刻表示になります。

（次ページへ続く）

表示を切り換える（つづき）

次の表示モードから選びます。

■ カウンター表示モード(COUNT)
ひとつの用件の中の経過時間を表示します 。

■ 残り時間表示モード(REM)
再生中はその用件の中の残り時間を表示します。

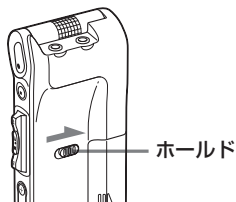
録音中、停止中は録音可能な残り時間を表示します。

■ 録音年月日表示モード(REC DATE)
再生または停止中は、用件を録音した年月日を表示します。録音中は、現在の年月日を表示します。（時計を合わせていない場合は、「--Y--M--D」と表示されます。）

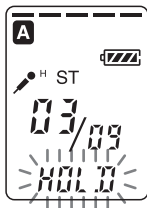
■ 録音時刻表示モード(REC TIME)
再生または停止中は、用件を録音した時刻を表示します。録音中は、現在の時刻を表示します。（時計を合わせていない場合は、「--:--」と表示されます。）

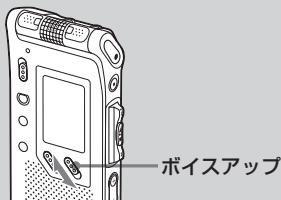
表示を消す

本機には、電源スイッチはありません。表示部には常に表示が出てきますが、電池の持続時間（9ページ）にはほとんど影響はありません。

表示を消すには、停止中にホールドスイッチを矢印の方向にずらします。

「HOLD」が3秒点滅し、表示窓の表示が消えます。

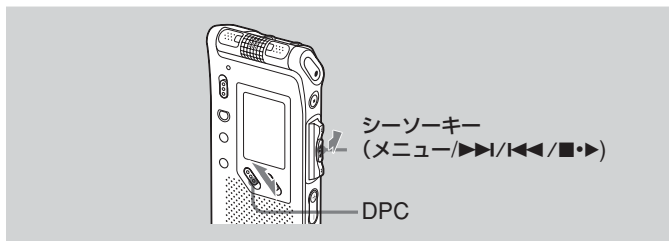
表示を出すには、ホールドスイッチの位置を元に戻します。

基本的な使いかた

小さな音も聞きやすい大きさで再生する
ーデジタルボイスアップ機能

停止中または再生中にボイスアップスイッチを「入」にすると、聞き取りにくい小さな音も聞きやすい大きさに自動調整して再生することができます。全体の録音レベルを最適化することで、バランスの良い、聞き取りやすい再生音になります。

通常の再生音に戻すには

ボイスアップスイッチを「切」の位置に戻します。

再生スピードを調節する
−DPC（デジタル・ピッチ・コントロール機能）

再生スピードを通常の約2倍（＋100%）から半分（−50%）の間で調節できます。その際、音程はデジタル処理により、自然に近いレベルで再生します。

速聞きまたは遅聞き再生するには

停止中または再生中にDPCスイッチを「入」の位置にして再生します。画面に「FAST」または「SLOW」が3秒点滅し、メニューで設定した再生スピードで用件が再生されます。

通常の再生スピードに戻すには

DPCスイッチを「切」の位置に戻します。

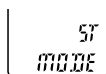
（次ページへ続く）

再生スピードを調節する
ーDPC（デジタル・ピッチ・コントロール機能）（つづき）

再生スピードを設定するには

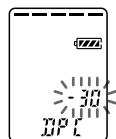
メニューでDPCスイッチを「入」にしたときの再生スピードの設定をします。設定したスピードは、次に設定し直すまで有効です。

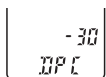
1 シーソーキーをメニュー側に倒す。

メニューが表示されます。

2 シーソーキーを上下（▶▶I/I◀◀）に押して、「DPC」を表示させ、シーソーキー（■•▶）を押す。

再生スピード設定画面が表示されます。表示されている数字は、標準スピードを「0」にした場合のスピードのパーセンテージ（%）です。

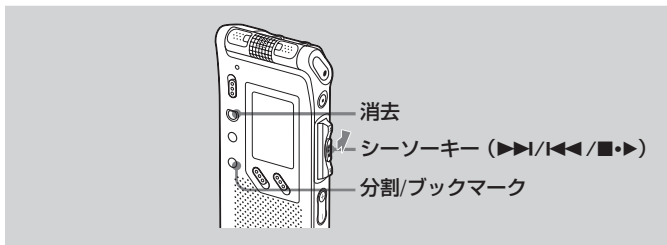
3 シーソーキーを上下（▶▶I/I◀◀）に押し、再生スピードを設定する。

- 上（▶▶I）に押す：速聞き再生（10%単位で+100%まで）
- 下（I◀◀）に押す：遅聞き再生（5%単位で-50%まで）

4 シーソーキー（■•▶）を押す。

設定したスピードが確定します。

5 シーソーキーをメニュー側に倒す。

通常の表示に戻ります。

ブックマークを設定する

ブックマークは用件の途中で設定し、再生時に利用します。設定できるブックマークの数は1つの用件に1つずつです。

再生中、または停止中にブックマークをつけたい場所で分割／ブックマークボタンを1秒以上押す。

ブックマーク表示（ ）が3回点滅し、ブックマークが設定されます。
すでにブックマークの設定された用件に新たに設定すると、古いブックマークは解除され、新しい位置にブックマークが移動します。

ブックマークの位置から再生を始めるには

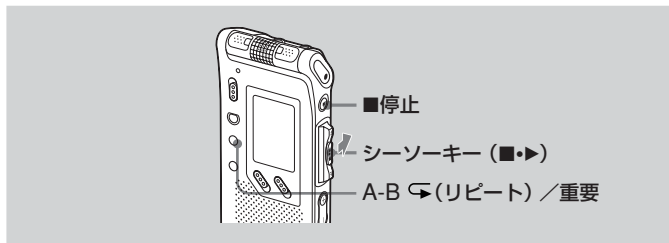
停止中にシーソーキーを上下（▶▶I/I◀◀）に押します。ブックマーク表示が点滅したら、シーソーキー（■•▶）を押します。

ブックマークを削除するには

停止中にシーソーキーを上下（▶▶I/I◀◀）に押してブックマークを消去したい用件の番号を選び、分割／ブックマークボタンを押しながら消去ボタンを1秒以上押します。ブックマーク表示と「ERASE」が点滅中にもう一度消去ボタンを押します。

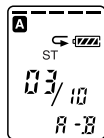
ご注意
ブックマークが設定されている用件を用件結合（44ページ）したいときは、ブックマークを削除してから用件結合してください。

指定した区間を繰り返し聞く－A-Bリピート

用件の再生中に、繰り返し聞きたい区間の最初（A点）と最後（B点）を指定します。

1 再生中にA-B（リピート）／重要ボタンを短く押して、A点を指定する。

「A-B B」が点滅します。

2 もう一度A-B（リピート）／重要ボタンを短く押して、B点を指定する。

「A-B」と「 」が表示され、指定した区間が繰り返し再生されます。

普通の再生に戻すには

シーソーキー（■•▶）を押します。

A-Bリピート再生を止めるには

■停止ボタンを押します。

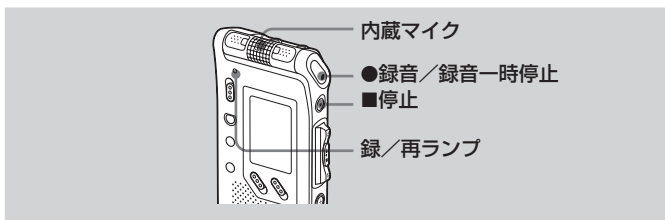
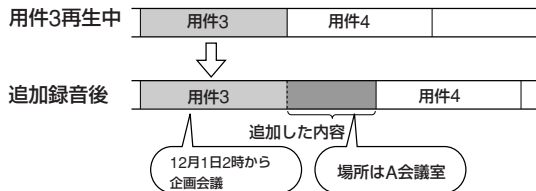
ご注意

- 2件以上の用件にまたがって指定はできません。
- B点を指定しないと、その用件の終わり（またははじめ）が自動的にB点になります。

録音済みの用件に追加または上書き録音する

ご注意

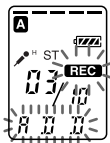
- 本機の工場出荷状態では、誤操作を防ぐために追加録音や上書き録音は利用できません。「追加録音／上書き録音できるようにする」（54ページ）の手順にしたがって、設定を変更してください。
- 追加･上書き録音する部分は、再生中の用件の録音モード（STまたはSP、LP）と同じ録音モードで録音されます。メニューで設定した録音モード（55ページ）とは異なる場合がありますので、ご注意ください。
- メモリー残量が不足している場合は追加または上書き録音ができません。詳しくは「故障かな？と思ったら」（61ページ）をご覧ください。

録音済みの用件に追加録音する

用件を再生中に、その用件に追加して録音できます。
新しく追加した内容は、再生中の用件の最後に再生中の用件の一部として追加されます。

録音済みの用件に追加または上書き録音する（つづき）

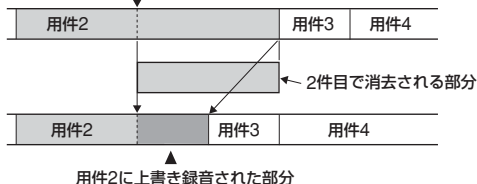
1 再生中に●録音／録音一時停止ボタンを押す。

「REC」と「ADD」が点滅し、録音スタンバイ状態になります。

2 「REC」と「ADD」が点滅中に、●録音／録音一時停止ボタンを押す。

「REC」が点灯表示に変わってから「ADD」が3秒点滅し、録／再ランプは赤に変わります。
その後、再生中の用件への追加録音が始まります。

3 ■停止ボタンを押して録音を止める。

録音済みの用件の途中から上書き録音する

用件の中の指定した場所から、新しい用件を上書き録音できます。すでに録音してあった部分は消去されます。

1 再生中に●録音／録音一時停止ボタンを短く押す。

「REC」が表示され、「OVER」が点滅し、録／再ランプが赤く点滅します。

2 ●録音／録音一時停止ボタンを押して録音を開始する。

設定しておいた表示モード（29ページ）に戻り、録／再ランプは赤く点灯します。

3 ■停止ボタンを押して録音を止める。

録音した用件を消去する

録音した用件を1件ずつ、または1つのフォルダ内の全用件を一度に消去できます。

ご注意

一度消去した内容はもとに戻すことはできません。ご注意ください。

1件ずつ消去する

消したい用件だけを消去できます。
用件を消すと、次の用件が自動的に繰り上がるので、間に空白部分は残りません。

消去前	用件1	用件2	用件3	用件4	用件5
消去後	用件1	用件2	用件3	用件4	

3件目を消去する

用件の番号が繰り上がる

1 消去したい用件を再生中に消去ボタンを押す。または、停止中に消去ボタンを1秒以上押す。

用件番号と「ERASE」が点滅し、消去したい用件のはじめと終わりの5秒が10回ずつ再生されます。

2 「ERASE」の点滅中（用件の再生中）に消去ボタンをもう1度押す。

用件が消去され、以降の用件番号が繰り上がります。（例えば、用件3を消去した場合、用件4だったものが用件3になります。消去が完了すると、消去した用件の次の用件の頭で停止します。）

途中で消去をやめるには
手順2の前に■停止ボタンを押します。

他の用件を消去するには
手順1と2を繰り返します。

ひとつの用件の一部分だけ消去するには
用件分割（42ページ）して、消去する部分としない部分に分けてから、消去したい部分の用件番号を選んで前ページの操作をします。

フォルダの中身を一度に消去する

1つのフォルダの中のすべての用件を一度に消去できます。

1 **シーソーキーをフォルダ側に何度か倒して、全用件を消去したいフォルダを表示させる。**

2 **■停止ボタンを押しながら、消去ボタンを1秒以上押す。**

用件番号と「ALL ERASE」が10秒点滅します。

3 **「ALL ERASE」の点滅中に消去ボタンを押す。**

フォルダ内の用件が削除されます。フォルダ自体は削除されません。

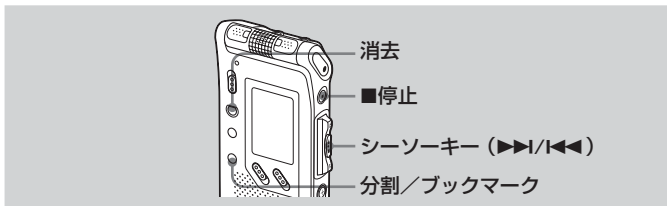
☞ **途中で消去をやめるには**

手順3の前に■停止ボタンを押します。

用件をふたつに分ける／つなげる
－用件分割／用件結合

ひとつの用件をふたつに分割（用件分割）したり、ふたつの用件をひとつにつなげる（用件結合）ことができます。

用件分割－ 録音または再生中に行います。（下記参照）

用件結合－ 停止中に行います。（44ページ参照）

用件分割／用件結合についてのご注意

ICレコーダーの録音方式のシステム上の制約により、用件分割／用件結合できなくなることがあります。（65ページ）

用件をふたつに分ける（用件分割）

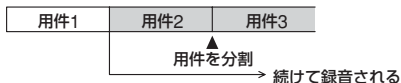
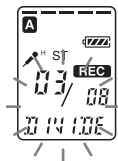
録音または再生中に用件を分割して、その場所に新しい用件番号が付けられます。会議など1件の用件が長時間になったときなどに、複数の用件に分割しておくと再生したい場所がすばやく探せ、便利です。
分割したい用件が入っているフォルダの用件数が99件になるまで、用件を分割できます。

ご注意

- 用件を分割するには、メモリーに一定の空き容量が必要です。詳しくは「システム上の制約」（65ページ）をご覧ください。
- 重要マーク（46ページ）の付いた用件を分割した場合、分割した後ろの用件にも同じ重要マークが付きます。

録音または再生中に、用件分割したいところで分割／ブックマークボタンを押す。

- **録音中に押したときは**: 押したところから新しい用件番号がつき、その番号と「DIVIDE」が3秒点滅します。2つの用件として録音されますが、途切れず続けて録音されます。
  ☞ 録音一時停止中でも用件分割できます。

用件1	用件2	用件3

用件を分割
続けて録音される

- **再生中に押したときは**: 押したところで用件が分割され、新しい用件番号と「DIVIDE」が3秒点滅します。以降の用件番号はひとつずつ送られます。

用件1	用件2		用件3
	用件を分割		
用件1	用件2	用件3	用件4

用件番号が1つずつ増える

用件を分割した部分を探して聞くには

分割した用件を1件として用件番号がついているので、用件番号を探すときと同様にシーソーキーの上下（▶▶I/I◀◀）を押して再生する部分を探してください。

☞ **分割した用件を続けて聞くには**
メニューで連続再生（CONT）を「ON」にしておくと便利です（56ページ）。

（次ページへ続く）

用件をつなげる（用件結合）

2つの用件を1つの用件に結合できます。

用件1	用件2	用件3	用件4	
	⇩ 用件を結合 ▲			
用件1	用件2		用件3	用件番号が1つずつ減る

ご注意

- 用件をつなげると、後ろの用件のアラーム設定（48ページ）、重要マーク（46ページ）、ブックマーク（35ページ）などは削除されます。
- ブックマーク（35ページ）のついた用件の場合、以下の操作でまずブックマークが解除されます。もう1度以下の操作を行うと、用件を結合できます。

1 ■停止ボタンを押して停止状態にする。

2 シーソーキーの上下（▶▶I/I◀◀）を押して、つなげたい2つの用件のうち、後ろのほうの用件番号を選ぶ。

3 分割／ブックマークボタンを押しながら消去ボタンを1秒以上押す。

「CMB」が10秒点滅します。

4 点滅している間に消去ボタンを押す。

2つの用件が1つの用件にまとまり、用件番号が上図のようにつけ直されます。

途中で用件結合をやめるには

手順4の前に■停止ボタンを押します。

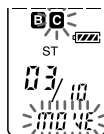
用件を別のフォルダに移動する

録音済みの用件を、別のフォルダに移動できます。移動すると、もとのフォルダからその用件はなくなります。

例：フォルダBの3件目の用件をフォルダCに移動する。

1 **移動させたい用件を再生する。**

2 **用件の再生中にシーソーキーをフォルダ側に何度か倒して移動先のフォルダを点滅させる。**

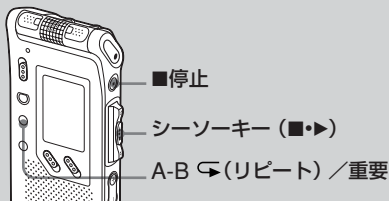
移動先のフォルダと「MOVE 」が点滅し、用件のはじめと終わりの5秒が10回ずつ再生されます。

3 **シーソーキー（■•▶）を押す。**

用件が移動先のフォルダに移動します。そのフォルダの録音日時順または、重要マーク順にしたがった場所に挿入されます。

途中でフォルダの移動をやめるには
手順3の前に■停止ボタンを押します。

用件の編集

用件に優先順位をつけて並べ換える－重要マーク

通常、用件は各フォルダの中で録音日時の古い順に番号が付けられて並んでいます。これを、重要な用件が先に来るように、重要マーク（★）を付けて並べ換えることができます。
「★★★」（最重要）、「★★」、「★」、無印の4段階に並べ換えることができます。停止中または再生中に操作ができます。

停止中に重要マークを付ける

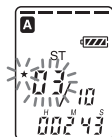
1 **重要マークを付けたい用件を表示させる。**

2 **A-B ⊊（リピート）／重要ボタンを1秒以上押す。**
用件番号と★マークが点滅します。

3 **点滅している間にA-B ⊊（リピート）／重要ボタンを何度か押して★の数を選ぶ。**
点滅から点灯に変わると、設定が完了し、用件が並び換わります。

再生中に重要マークを付ける

1 重要マークを付けたい用件の再生中にA-B ⟳（リピート）／重要ボタンを1秒以上押す。

用件番号と★マークが点滅し、用件のはじめと終わりの5秒が10回ずつ再生されます。

2 A-B ⟳（リピート）／重要ボタンを何度か押して★の数を選ぶ。

3 シーソーキー（■•▶）を押して決定する。

設定が完了し、用件が並び換わります。

重要マークの付いた用件は

各フォルダの中で、★の数の多い順に自動的に並べ換えられます。★のない用件は、★のある用件の後ろに並びます。

例：同じフォルダに用件が3件入っているとき

1番目 → 2番目 → 3番目

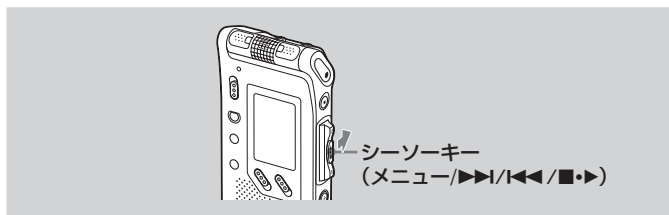
☞ ★の数が同じ用件が2件以上ある場合は、録音日時の古い順に並びます。

ご注意

付属のソフトウェアDigital Voice Editor上で重要マークを付けた場合、パソコン上で重要マーク順にソートしないと、ICレコーダーでは重要マーク順には並びません。

希望の時刻に再生を始める–アラーム再生

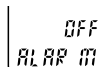
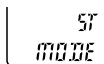
あらかじめ設定した時刻にアラーム音とともに用件を再生できます。特定の日付を指定したり、毎週同じ曜日や毎日同じ時刻に再生するように設定できます。また、用件の再生をせずにアラーム音だけも鳴らせます。

ご注意
時計を合わせていない場合や、用件が録音されていない場合は、アラーム設定はできません。

1 アラーム再生したい用件を表示させる。

（21ページの手順1、2参照）

2 アラーム設定画面を表示する。

① シーソーキーをメニュー側に倒す。
メニュー画面が表示されます。

② シーソーキーを上下（▶▶I/I◀◀）に押して「ALARM　OFF」を選ぶ。
すでにその用件がアラーム設定されていると「ALARM ON」が表示されます。

③ シーソーキー（■•▶）を押す。
アラームの設定画面が表示されます。

④ シーソーキーを上下（▶▶I/I◀◀）に押して、「ON」を選ぶ。

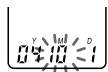
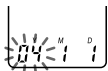
⑤ シーソーキー（■•▶）を押す。
「DATE」が表示されます。

3 アラーム再生する日を設定する。

日付を指定する場合

① 「DATE」が点滅中にシーソーキー（■•▶）を押す。
「年」の数字が点滅します

② シーソーキーを上下（▶▶I/I◀◀）に押して、年の数字を選び、シーソーキー（■•▶）を押す。
「月」の数字が点滅します。

③ 同様にして、「月」、「日」の数字を選ぶ。

週に1回再生したい場合

シーソーキーを上下（▶▶I/I◀◀）に押して、希望の曜日（「SUN」～「SAT」）を選び、シーソーキー（■•▶）を押す。

毎日決まった時刻に再生したい場合

シーソーキーを上下（▶▶I/I◀◀）に押して、「DAILY」を選び、シーソーキー（■•▶）を押す。

（次ページへ続く）

その他の機能

4 アラーム再生する時刻を設定する。

① シーソーキーを上下（▶▶I/I◀◀）に押して、時の数字を選び、シーソーキー（■•▶）を押す。
「分」の数字が点滅します。

④ シーソーキーを上下（▶▶I/I◀◀）に押して、分の数字を選び、シーソーキー（■•▶）を押す。

5 シーソーキーを上下（▶▶I/I◀◀）に押して、「B-PLAY」（アラーム音後に用件を再生）または「B-ONLY」（アラーム音のみ）を選ぶ。

6 シーソーキー（■•▶）を押す。

設定が完了しました。

7 シーソーキーをメニュー側に倒す。

通常の画面に戻ります。
アラーム設定した用件には「((•))」が表示されます。

設定した時刻になると

約10秒間アラーム音が鳴り、選んだ用件の再生が始まります（「B-ONLY」を選んだ場合はアラーム音のみが鳴ります）。
アラーム再生中は、「ALARM」が点滅します。
再生が終わると、自動的に停止します（アラーム再生した用件の頭に戻ります）。

☞ **アラーム再生された用件をもう一度聞くには**
シーソーキー（■•▶）を押すと、その用件のはじめから再生されます。

☞ **用件が再生される前に止めるには**
アラーム音が鳴っている間に■停止ボタンを押します。ホールドスイッチが入っていても止められます。

アラーム設定を解除するには

48ページの手順2で、「OFF」を選び、シーソーキー（■•▶）を押す。

現在設定内容を変更するには

48、49ページの手順1〜2を行い、現在設定されているアラーム再生時刻が表示されたら、49、50ページの手順3〜7で新しい内容を設定する。

ご注意

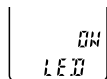
- アラーム再生中に別の用件の設定時刻になった場合、用件の途中で次のアラーム再生が始まります。
- 録音中にアラーム設定した時刻になった場合は、「((•))」表示のみが点滅し、録音を終了したときにアラームが鳴り始めます。
- 録音中に2つ以上のアラーム設定時刻になった場合は、録音終了後に時刻の早い方の用件のみアラームが鳴ります。
- メニューモード中にアラーム設定時刻になった時はメニューモードが中止され、アラームが鳴り始めます。
- アラーム設定した用件を用件分割した場合、分けた時点より前の部分にのみアラーム設定されます。
- アラーム設定した用件を前の用件と用件結合した場合、後ろの用件のアラーム設定は無効になります。
- 一度設定したアラームは、アラーム再生を終了した後も設定は解除されません。

録音/再生ランプを消す

録音、再生中など、動作中は録／再ランプが点灯または点滅します。メニューで、録／再ランプを動作中も消したままに設定できます。

1 シーソーキーをメニュー側に押す。

メニュー画面が表示されます。

2 シーソーキーを上下（▶▶I/I◀◀）に押して、「LED ON」を選ぶ。

3 シーソーキー（■•▶）を押す。

録／再ランプ動作設定モードになります。

4 シーソーキーを上下（▶▶I/I◀◀）に押して「OFF」を選び、シーソーキー（■•▶）を押す。

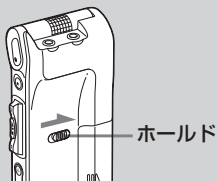
設定が変更されます。

5 シーソーキーをメニュー側に倒す。

通常の画面に戻ります。

録／再ランプを点灯、点滅させるには

手順4で「ON」を選びます。

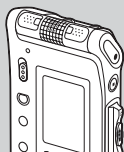
誤操作を防止する– ホールド機能

ホールドスイッチを矢印の方向にずらします。表示窓に「HOLD」が3秒点滅し、すべてのボタンが操作できなくなります。
停止中にホールドにすると、「HOLD」が点滅のあと、表示窓の表示がすべて消えます。

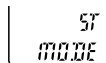
ホールドを解除するには

操作できるようにするには、ホールドスイッチを矢印と反対の方向にずらしてください。

ホールド中でもアラーム再生は止められます。
アラーム再生時、アラーム音や用件再生を止めるときには■停止ボタンは使えます（通常の用件再生は停止できません）。

追加録音／上書き録音できるようにする

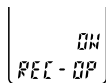
本機の工場出荷状態では、誤操作を防ぐために追加録音（37ページ）や上書き録音（38ページ）は利用できません。追加録音や上書き録音する場合は、以下の手順にしたがって設定を変更してください。

1 シーソーキーをメニュー側に倒す。

メニュー画面が表示されます。

2 シーソーキーを上下（▶▶I/I◀◀）に押して「REC-OP」を選んでから、シーソーキー（■•▶）を押す。

録音機能設定モードになります。

3 シーソーキーを上下（▶▶I/I◀◀）に押して「ON」を選び、シーソーキー（■•▶）を押す。

設定が変更されます。

4 シーソーキーを上下（▶▶I/I◀◀）に押して「ADD」（追加録音）または「OVER」（上書き録音）を選んでから、シーソーキー（■•▶）を押す。

5 シーソーキーをメニュー側に倒す。

通常の画面に戻ります。

追加録音／上書き録音できない設定に戻すには

手順3で「OFF」を選びます。

設定を変える– メニュー一覧

以下の手順にしたがって操作してください。メニューの内容は、以下の表の通りです。なお、設定できるメニュー項目は、動作モード（停止中、再生中、録音中）によって異なります。

① シーソーキーをメニュー側に倒して、メニューモードに入る。
② シーソーキーを上下（▶▶I/I◀◀）に押して、設定したい項目を選び、シーソーキー（■•▶）を押す。
③ シーソーキーを上下（▶▶I/I◀◀）に押して設定し、シーソーキー（■•▶）を押す。
④ シーソーキーをメニュー側に倒して、メニューモードを終了する。

ご注意
約1分間いずれのキーも押されないと、メニューモードが自動的に解除され、通常の画面に戻ります。

メニュー	動作モード（○:設定可能/－:設定不可）➡ 設定項目（*:初期設定）	停止中	再生中	録音中
MODE	録音モードを設定します。 ST*：ステレオ録音できます。 SP：モノラル標準録音です。 LP：モノラル長時間録音です。	○	－	－
SENS	マイク感度を設定します。 H*：会議室での録音など、遠くの音や小さい音を録音するときに使用します。 L：口述録音など、マイクを口元に近づけて録音したり、近くの音や大きい音を録音するときに使用します。	○	－	○
DISP	表示モードを設定します。（COUNT*） ➡29ページ参照。	○	○	○

（次ページへ続く）

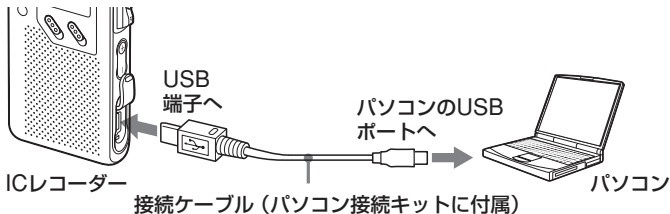
メニュー	動作モード（○:設定可能/−:設定不可）➡ 設定項目（*:初期設定）	停止中	再生中	録音中
VOR	VOR(自動音声録音スタート)機能を設定します。 ON： VOR機能が有効になり、ある大きさ以上の音をマイクが拾うと自動的に録音が始まり、音が小さくなると録音が止まります。空録音の部分がなくなり、効率の良い録音をすることができます。 OFF*：VOR機能が無効になり、通常の録音モードになります。	○	−	○
DPC	再生スピードを設定します。（0%*） ➡33ページ参照。	○	○	−
EASY-S	イージーサーチを設定します。 ON: 再生中、シーソーキーの上（▶▶I）を押して約10秒進み、または下（I◀◀）を押して約3秒戻ります。 OFF*: シーソーキーの上下（▶▶I/I◀◀）で用件を送ります。	○	−	−
CONT	連続再生を設定します。 ON： フォルダ内の用件を続けて再生します。 OFF*：用件が終わるごとに止まります。	○	○	−
REC-OP	追加録音／上書き録音を許可／禁止します。（ON/OFF*） ➡54ページ参照。	○	−	−
SET DATE	時計を設定します。（04Y1M1D*) ➡11ページ参照。	○	−	−
BEEP	ビープ音（ピッという確認音）を設定します。 ON*： 操作時の受け付け確認音およびエラー音（ピピピピ）が鳴ります。 OFF： 操作時の受け付け確認音やエラー音が鳴りません（アラームは鳴ります）。	○	−	−
LED	録/再ランプの点灯・消灯を設定します。（ON*/OFF） ➡52ページ参照。	○	−	−
ALARM	アラーム再生を設定します。（ON/OFF*） ➡48ページ参照。	○	−	−

パソコン接続キットを使う

付属のパソコン接続キットを使ってパソコンに接続すると、以下の操作ができます。詳しくは、Digital Voice Editorの取扱説明書をご覧ください。

- 本機で録音した音声データをパソコンのハードディスクに保存する。
- パソコンに保存したデータを本機に転送する。
- パソコンに取り込んだ用件を電子メールに添付して、声のメールを送る。
- 音声認識ソフトウェア（別売り）と組み合わせて音声を文字化する。

ご注意
古いバージョンのDigital Voice Editorをすでにお使いの場合は、新しいバージョンのDigital Voice Editorをインストールしてください。本機に付属するDigital Voice Editorのバージョン番号は、CD-ROMに記載されています。

接続図

（次ページへ続く）

必要なシステム構成

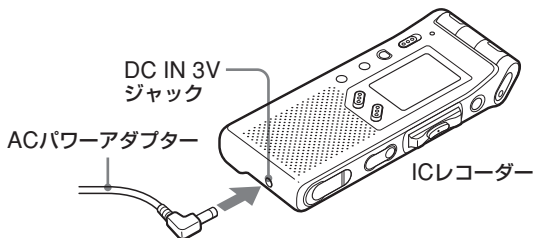
□ 以下の性能を満たしたIBM PC/AT*およびその互換機
CPU：266MHz以上のPentium®IIプロセッサ**もしくは同等の性能を有するプロセッサ（NEC PC-98シリーズとその互換機、自作PCでは動作保証いたしません。Macintoshには対応していません。）
RAM容量：64Mバイト以上
ハードディスクの空き容量：70Mバイト以上（音声データの扱い量に比例して多くの空き容量が必要です。）
ドライブ：CD-ROMドライブ（インストール時）/“メモリースティック”ドライブ（“メモリースティック”使用時）
通信ポート：USB（USB端子付きICレコーダー、“メモリースティック”アダプター使用時）
サウンドボード：Sound Blaster 16互換
ディスプレイ：ハイカラー（16ビットカラー）以上、800×480ドット以上

□ OS：Microsoft Windows® XP Professional、Windows® XP Home Edition、Windows® 2000 Professional、Windows® Millennium Edition、Windows®98 Second Edition、Windows®98、標準インストール***(日本語版)

* IBM、PC/ATは米国International Business Machines Corporationの登録商標です。
** PentiumはIntel Corporationの登録商標です。
*** Microsoft、Windowsは米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標または商標です。

家庭用電源につないで使う

長時間録音などをする場合は、家庭用電源（コンセント）で使うと、電池消耗の心配がなく、便利です。

1 DC IN 3Vジャックに、付属のACパワーアダプターAC-ES3010K（ICD-ST45のみ）または別売りのACパワーアダプターAC-E30Lをつなぐ。

2 ACパワーアダプターをコンセントにつなぐ。

ご注意

- この製品には、付属のACパワーアダプターAC-ES3010K（ICD-ST45のみ）または別売りのACパワーアダプターAC-E30L（極性統一型プラグ・JEITA規格）をご使用ください。上記以外のACパワーアダプターを使用すると、故障の原因となることがあります。
- 録音中（録／再ランプが赤に点灯·点滅）やアクセス中（録／再ランプがオレンジに点滅し、右の画面が表示中）はACパワーアダプターを抜かないでください。データが破損するおそれがあります。
なお、用件数が多いと、「ACCESS」表示が長時間表示される場合がありますが、故障ではありません。表示が消えるまでお待ちください。

極性統一型プラグ

使用上のご注意

ノイズについて

- 録音中や再生中に本機を電灯線、蛍光灯、携帯電話などに近づけすぎると、ノイズが入ることがあります。
- 録音中に本機に手などが当たったり、こすったりすると、雑音が録音されることがあります。

ご使用場所について

- 運転中のご使用は危険ですのでおやめください。

取り扱いについて

- 落としたり、強いショックを与えたりしないでください。故障の原因になります。
- 次のような場所には置かないでください。
  –温度が非常に高いところ（60°C以上）。
  –直射日光のあたる場所や暖房器具の近く。
  –窓を閉めきった自動車内（特に夏期）。
  –風呂場など湿気の多いところ。
  –ほこりの多いところ。

万一故障した場合は、内部を開けずにお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

お手入れ

本体表面が汚れたときは、水気を含ませた柔らかい布で軽くふいたあと、からぶきします。シンナーやベンジン、アルコール類は表面の仕上げを傷めますので使わないでください。

バックアップのおすすめ

万一の誤消去や、ICレコーダーの故障などによるデータの消滅や破損にそなえ、大切な録音内容は、必ず予備として、テープレコーダーなどに録音、またはパソコンなどにバックアップを保存してください。

故障かな？と思ったら

修理を依頼される前に、もう一度下記項目をチェックしてみてください。それでも解決しない場合、ご不明な点は、裏表紙に記載のパーソナルオーディオ·カスタマーサポートページをご覧いただくか、お客様ご相談センターまでお問い合わせください。
なお、保証書とアフターサービスについては、69ページをご参照願います。

こんなときは

症状	原因／処置
操作ボタンを押しても動作しない。	● 乾電池の⊕と⊖の向きが正しくない（8ページ）。 ● 乾電池が消耗している（9ページ）。 ● ホールドスイッチが入っている（ボタンを押すと「HOLD」表示が3秒点滅）（53ページ）。
スピーカーから音が出ない。	● 音量が絞られている。
イヤーレシーバーをつないでいても、スピーカーから音が出る。	● 再生中にイヤーレシーバーを差し込むとき、最後まで差し込まないとスピーカーからも音が聞こえてしまうことがあります。 →いったんイヤーレシーバーを抜いて、最後までしっかり差し込む。
録/再ランプが点灯しない。	● メニューのLEDが「OFF」に設定されている（52ページ）。 →「ON」に切り換える。
「FULL」と「REC」が点滅し、録音できない。	● メモリーがいっぱいになっている。 →不要な用件を消去する（39ページ）か、付属のパソコン接続キットを使ってパソコンに保存してから、メモリーの内容を消去する。
「FULL」が点滅し、録音できない。	● 選んだフォルダに99件録音されている。 →別のフォルダを選ぶか、不要な用件を消去する。
追加、または上書き録音できない。	● メモリー残量が不足している場合は追加、または上書き録音できません。なお、上書き録音の場合、上書きされる部分は新たに録音される部分の録音が終わってから消去されるため、録音できるのは現在の残り録音可能時間分のみです。
録音が途中で止まる。	● デジタルVOR（56ページ）が作動している。VORを使用しないときは、「OFF」にする。

（次ページへ続く）

故障かな？と思ったら（つづき）

症状	原因／処置
雑音が入る。	• 録音したとき、本機をこすってしまい、雑音が録音された。 • 録音中や再生中に本機を電灯線、蛍光灯、携帯電話などに近づけすぎると、ノイズが入ることがあります。 • 外部マイク（別売り）で録音したとき、マイクのプラグが汚れていた。 →プラグをきれいにクリーニングする。 • イヤーレシーバーで聞いているとき、イヤーレシーバーのプラグが汚れている。 →プラグをきれいにクリーニングする。
録音レベルが小さい。	• マイク感度（SENS）が「L」（口述録音モード）になっている。 →「H」に切り換える（55ページ）。小さい音を聞きづらいときは、デジタルボイスアップスイッチを「入」にすると聞きやすくなる場合があります（32ページ）。
音声が途切れて録音される。（他の機器をつないで録音しているとき）	• 本機への入力に、抵抗なしオーディオコードを使用すると、音声がゆがんで録音されることがあります。 →抵抗入りのオーディオコードを使う（19ページ）。
再生スピードが速すぎたり遅すぎたりする。	• DPCスイッチが「入」になっているため、メニューの「DPC」で調整した再生スピードで再生されている（33ページ）。 →DPCスイッチを「切」にすると、通常の速度で再生されます。または、「DPC」で再生スピードを調整してください。
時計表示が「--:--」になる。	• 時計を合わせていない（11ページ）。
REC DATE表示が「--Y--M --D」または「--:--」になる。	• 時計を合わせていない時に録音した用件には、録音した日付は表示されません。
メニュー表示の項目が足りない。	• 再生、または録音中は、表示されないメニューがあります（55、56ページ）。
用件結合できない。	• ブックマークが設定されている。 →まずブックマークを消去してから、用件結合してください。

症状	原因／処置
用件が重要マークの順に並んでいない。	• 付属のパソコン接続キットを使って、パソコンで重要マークを付け、重要マーク順にソートした場合は、本機に戻したときも重要マーク順に並びます。ソートしていない場合は、重要マークに関係なく、パソコン上での並び換えた用件の順番になります。
ICレコーダーに表示される残り時間（30ページ）が、パソコン上での残量表示より短い。	• ICレコーダーではシステム上必要な領域を差し引いて表示しているため、Digital Voice Editorでの残量表示と異なる場合があります。
電池の持続時間が短い。	• 9ページの乾電池の持続時間は、音量ボタンが中間レベル付近で内蔵スピーカーで再生した場合の目安です（ソニーアルカリ乾電池LR03（SG）使用時）。使用条件によって短くなる場合があります。
「ACCESS」表示が消えない。	• 用件数が多いと、長時間表示されることがありますが、故障ではありません。表示が消えるまでお待ちください。
正常に動作しない。	• 乾電池を取り出して、もう一度入れ直す。
パソコンと接続できない。	• 付属のDigital Voice Editorの取扱説明書をご覧ください。 • 1台のパソコンで複数のICレコーダーを管理する場合は、最新バージョンのDigital Voice Editorをインストールしてください。本機に付属するDigital Voice Editorのバージョン番号は、CD-ROMに記載されています。 • 別売りのパソコン接続キットICKIT-W1/W2/W5/W7は本機とは接続できません。

修理に出すと、録音した内容が消えることがあります。ご了承ください。

エラー表示一覧

エラー表示	原因
BACK DATE	現在日時よりも前の日時でアラームを設定しています。年月日などもう一度確認して、設定し直してください。
CANNOTとMOVEが交互に点滅	何らかの原因で、フォルダ間で用件の移動ができません。
ERR ACCESS	メモリーの読み取りに失敗しました。電池を抜き差ししてみてください。
ERR DATA	本機で対応していないファイル形式か、データが破損しています。
FULLとRECが点滅	メモリー残量が足りないため、録音できません。いくつか用件を削除してからやり直してください。
FULLが点滅	フォルダ内の用件の合計数が99件を超えているか、メモリー残量が足りないため、用件を分割できません。いくつか用件を削除してからやり直してください（39ページ）。
LO BATT	電池が消耗しています。新しい電池に取り換えてください（9ページ）。
NO DATA	選んだ用件フォルダには1件も用件が録音されていません。用件が録音されていないと、アラーム設定などの操作はできません。
NO CMB	異なったモード間の用件結合はできません。
PRE SET	すでに別の用件で同じ日時にアラーム再生が設定されています。設定を変更してください。
SET DATE	時計合わせをしていないと、アラームは設定できません。

以下のようなエラー表示が出たときは、お客様ご相談センター（裏表紙）までご連絡ください。

エラー表示	原因
ERR 01	メモリーへのアクセスまたは初期化ができません。
ERR 02	メモリーへの書き込みができません。
ERR 03	メモリーの読み取りができません。
ERR 04	設定の読み込み、書き込みができません。
ERR 05	上記以外のエラーが発生しました。

システム上の制約

ICレコーダーの録音方式では、いくつかのシステム上の制約があり、次のような症状が出る場合があります。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

症状	原因
最大録音時間まで録音できない。	● STモードとSPモード、LPモードを混ぜて録音すると、最大録音時間はSTモードとLPモードの最大録音時間の間になります。 ● 上記の理由により、実際に録音した時間（カウンター表示）の合計と、「残り時間」を合計した時間が、最大録音時間より少なくなる場合があります。
用件分割できない。	● 1つのフォルダ内で99件を超えると、用件は分割できません。 ● 用件の分割と結合を繰り返すと、用件分割や用件結合ができなくなる場合があります。
用件結合できない。	● 異なる録音モード（ST/SP/LP）間の用件結合はできません。 ● 用件の分割と結合を繰り返すと、用件分割や用件結合ができなくなる場合があります。

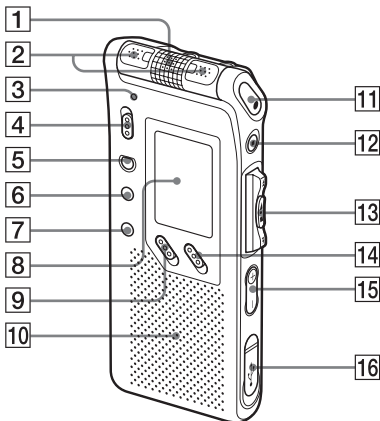
主な仕様

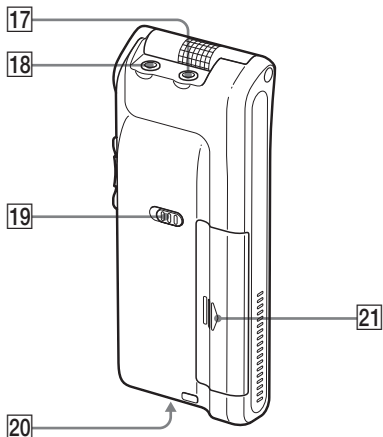
録音方式
　内蔵フラッシュメモリー使用
　容量
　　ICD-ST45：128MB
　　ICD-ST25：32MB
最大録音時間
　13ページをご覧ください。
周波数範囲
　ST：60～13,500Hz
　SP：60～7,000Hz
　LP：80～3,500Hz
スピーカー
　直径 28mm
入・出力端子
　マイク（ステレオミニジャック）
　　プラグインパワー対応
　ヘッドホン（ステレオミニジャック）
　　負荷インピーダンス 、8～300Ω
　USB端子
再生スピード調節（DPC）
　＋100%～－50%
実用最大出力
　300 mW
電源
　DC 3V
　単4形アルカリ乾電池2本使用
最大外形寸法
　約41.5×103.6×13.3mm（幅／高さ／奥行き）最大突起部含まず
質量
　72g（アルカリ乾電池LR03 2本含む）
付属品
　ACパワーアダプター
　　AC-ES3010K（ICD-ST45のみ）
　ソニーアルカリ乾電池LR03（2）
　ステレオイヤーレシーバー（1）
　パソコン用アプリケーションソフト（CD-ROM）（1）
　USBケーブル（1）
　キャリングケース（1）
　取扱説明書（本体用1、アプリケーションソフト用1）
　保証書（1）
　ソニーご相談窓口のご案内（1）
　知っ得Q&A（本体用1、アプリケーションソフト用1）
　音声認識の手引き（1）
別売りアクセサリー
　アクティブスピーカー
　　SRS-T88
　インナーイヤーレシーバー
　　MDR-EX71SL
　ヘッドホン
　　MDR-E931LP
　エレクトレットコンデンサーマイクロホン
　　ECM-CS10、ECM-DS70P
　オーディオコード
　　RK-G134/G135/G136/G139
　　（接続方法については、別紙の「ICD知っ得Q&A」をご覧ください。）
　ACパワーアダプター
　　AC-E30L（ICD-ST25のみ）
　充電式ニッケル水素電池
　　NH-AAA-4BC
　充電式ニッケル水素電池専用急速充電器
　　BCG-34HRD

* 連続録音の場合は、途中電池交換が必要になります。詳しくは乾電池の持続時間（9ページ）をご確認ください。

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

各部のなまえ

本体（表面）

1 内蔵マイク（単一指向性）（14、16ページ）
2 内蔵マイク（全指向性）（14ページ）
3 録／再ランプ（14、52ページ）
4 指向性 入／切スイッチ（16ページ）
5 消去ボタン（39ページ）
6 A-B ⥃（リピート）／重要ボタン（36、46ページ）
7 分割／ブックマークボタン（35、42、44ページ）
8 表示窓（26ページ）
9 DPC 入／切スイッチ（33ページ）
10 スピーカー
11 ●録音／録音一時停止ボタン（14ページ）
12 ■停止ボタン（15ページ）
13 シーソーキー
フォルダ/メニュー/⏮(早戻し)/⏭(早送り）/■•▶（再生／停止、決定）
14 デジタルボイスアップスイッチ（23、32ページ）
15 音量+/−ボタン（22ページ）
16 USB端子（57ページ）

裏面

17 マイクジャック（19ページ）

18 ヘッドホンジャック（20、22ページ）

19 ホールドスイッチ（53ページ）

20 DC IN 3Vジャック（59ページ）

21 電池ぶた（8ページ）

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間はお買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お客様ご相談センター、お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではICレコーダーの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後6年間保有しています。この部品保有期間を修理可能な期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店またはサービス窓口にご相談ください。

索引

記号、アルファベット順

五十音順

ア行

カ行

サ行

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ヤ行

ラ行

お問い合わせ窓口のご案内

本機についてご不明な点や技術的なご質問、故障と思われるときのご相談については、下記のお問い合わせ先をご利用ください。

- **ホームページで調べるには→パーソナルオーディオ・カスタマーサポートへ（http://www.sony.co.jp/support-pa/）**

  ICレコーダーに関する最新サポート情報や、よくあるお問い合わせとその回答をご案内するホームページです。

- **電話・FAXでのお問い合わせは→お客さまご相談センターへ（下記電話・FAX番号）**
  - 本機の商品カテゴリーは［オーディオ］－［ウォークマン］です。
  - お問い合わせの際は、次のことをお知らせください。

    ◆ セット本体に関するご質問時：
    - 型名：ICD-ST45またはICD-ST25
    - シリアルナンバー：電池ボックス内
    - ご相談内容：できるだけ詳しく
    - お買い上げ年月日

    ◆ 付属のソフトウェアに関連するご質問時：
    質問の内容によっては、お客さまのシステム環境について質問させていただく場合があります。上記内容に加えて、システム環境を事前に分かる範囲でご確認いただき、お知らせください。

商品の修理、お取扱い方法、お買物相談などの問い合わせ

● http://www.sony.co.jp/SonyDrive/

お客様ご相談センター

● ナビダイヤル …………0570-00-3311
（全国どこからでも市内通話料でご利用いただけます）

● 携帯電話・PHSでのご利用は…03-5448-3311
（ナビダイヤルがご利用できない場合はこちらをご利用ください）

● FAX ……………………0466-31-2595

受付時間 ：月～金 9:00～20:00　土・日・祝日 9:00～17:00
お電話は自動音声応答にてお受けしています。

ソニー株式会社　〒141-0001　東京都品川区北品川 6-7-35

この説明書は100%古紙再生紙とVOC（揮発性有機化合物）ゼロ植物油型インキを使用しています。

Printed in Japan